

技術の名称

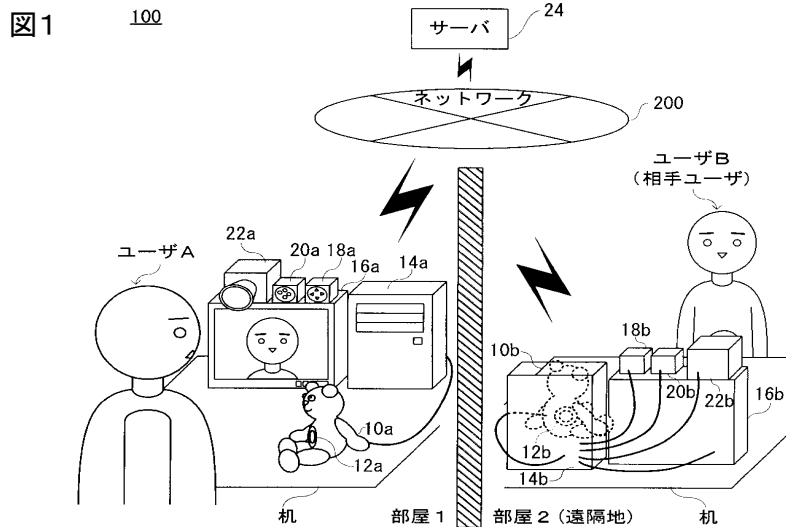
傾聴活動を用いた介護システム

適用分野

軽度認知症患者、高齢者、言語障害者などに対する介護

- 目的 コミュニケーション障害のある例えば軽度認知症患者同士での対話においてしばしば起こる集中力欠如による対話の中断を回避して、対話を持続させる、傾聴対話持続システムを提供する。
- 効果 本発明によれば、コミュニケーション障害のある例えば軽度認知症患者の状態に応じてロボットが対話を持続させるように動作するので、コミュニケーション障害のある軽度認知症患者等同士での対話を持続させることができる。従って、健常者による軽度認知症患者等に対する介護作業の軽減化が図れる。
- 技術概要 遠隔地にいるユーザ（コミュニケーション障害のある例えば軽度認知症患者）A、BがTV会話システムを介して会話状態にあるときに、モニターカメラ並びに各ユーザの手元に置かれたロボット10の腹部に設けられたカメラの映像からユーザの傾聴状態を判定し、ユーザがパッシブな状態にあると判定したときは、ロボットを動作させてユーザの注意を惹き付けてアクティブな状態に戻してユーザ同士の対話を持続させる。

■ 特記事項、図など



- 主たる提供特許 特許等の名称 : 傾聴対話持続システム
登録番号
出願番号 : 特願2009-252276 出願日 : 平成21年11月2日
公開番号 :

- 実施実績 有、 ○無 ■ 提供形態 ○実施許諾、 ×権利譲渡

お問合せ先

株式会社国際電気通信基礎技術研究所(ATR) 経営統括部 知的財産チーム
〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台二丁目2番地2(けいはんな学研都市)
TEL 0774-95-1171, 1195 E-mail ; patent@atr.jp